

平成 2 5 年度
第 3 回 柏市健康福祉審議会
地域健康福祉専門分科会

会 議 資 料

本 編

平成 2 5 年 1 0 月 3 日

柏 市 保 健 福 祉 部

柏市健康福祉審議会 地域健康福祉専門分科会 委員名簿

氏名	よみ	所属など
阿 部 和 子	アベ カズコ	大妻女子大学教授
今 村 貴 彦	イマムラ タカヒコ	柏歯科医師会会長
川眞田喜代子	カワマタ キヨコ	淑徳大学教授
小 竹 恵 子	コタケ ケイコ	前社会福祉法人柏市社会福祉協議 会副会長
小 林 正 之	コバヤシ マサユキ	柏市立介護老人保健施設はみんぐ施 設長
清 水 栄 司	シミズ エイジ	千葉大学大学院教授
長 瀬 慈 村	ナガセ ジソン	柏市医師会副会長
中 谷 茂 章	ナカタニ シゲアキ	柏市民生委員児童委員協議会会長
中 村 佳 弘	ナカムラ ヨシヒロ	柏市薬剤師会会長
藤 田 武 志	フジタ タケン	松葉町地域ふるさと協議会相談役 (前柏市ふるさと協議会連合会会長)
古 川 隆 史	フルカワ タカフミ	柏市議会議員
水 野 治太郎	ミズノ ジタロウ	麗澤大学名誉教授

目 次

1	計画策定に係る関連会議等の開催状況について・・・・・・・・・・	1
2	市民ワークショップの結果について・・・・・・・・・・	2
3	第3期計画の構成案について・・・・・・・・・・	9
4	本日、ご協議いただく事項・・・・・・・・・・	10

1 計画策定に係る関連会議等の開催状況について

■ 策定に係る関連会議等の開催予定

	審議会	庁内WG	市民WS	パブリック コメント
6 月		7 日 WG①		
7 月	4 日 分科会①	10 日 WG② 19 日 WG③	6 日 WS①	
8 月	1 日 分科会②		31 日 WS②	
9 月		3 日 WG④	14 日 WS③	
10 月	3 日 分科会③		5 日 WS④ 19 日 WS⑤	
11 月	28 日 分科会④	1 日 WG⑤		
12 月				12/15 ～ 1/15
平成26年 1 月		21 日 WG⑥		
2 月	13 日 分科会⑤ 27 日 全体会			
3 月				

2 市民ワークショップの結果について

■市民ワークショップについて

1 目的

- (1) 計画策定に当たり，市民の生の声を聞く。
- (2) 計画策定及び推進に当たっての市民・地域・行政の役割分担を検討する。

2 参加者募集方法

- (1) 昨年度，ワークショップに参加した人に案内を送付
- (2) 広報かしわ，かしわシティネット（柏市HP）等による募集

3 申込者数及び参加者数

- (1) 申込者数 27名
- (2) 参加者数

第1回	18名	（男性 8名 女性 10名）
第2回	24名	（男性 10名 女性 14名）
第3回	22名	（男性 9名 女性 13名）

【申込者数】

	合計	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
男性	11	1	1		1	3	4	1
女性	16			1	4	10	1	

4 全5回の予定

開催日	プログラム
第1回（7月6日）	①ワークショップの目的について ②地域健康福祉の現状について ③第3期柏市地域健康福祉計画について
第2回（8月31日）	・柱1 みんなで支えあえる地域づくり 3ページ
第3回（9月14日）	・柱2 情報発信と相談体制づくり 6ページ
第4回（10月5日）	・柱3 健やかに暮らせる地域づくり ・重点事業について
第5回（10月19日）	・柱4 安全安心に暮らせる地域づくり ・計画推進体制について

■第2回 市民ワークショップ（8/31）

「柱1 みんなで支え合える地域づくり」

1 当日の進め方

(1) 興味があるグループに分かれ現状や課題を共有します

下記のテーマに沿って、興味があるグループに分かれていただきました。分かれたグループの中で、各テーマに沿った現状や課題について簡単に話し合いを行いました。

- グループ1 組織的な活動の活性化
- グループ2 担い手を増やし、コーディネート機能を充実
- グループ3 活動や交流の「場」の創出



(2) 地域でできることを考えます

「どのようなことを地域でできるか」のアイデアを、右記のシートに、時間を区切って1人1段落（3アイデア分）ずつ埋めていただき、たくさんのアイデアをいただきました。

その後、重要だと思うアイデアにシールを貼っていただき、シールが多く貼られているものを中心に、「地域ではどのようなことが担えるのか」、「個人ではどのようなことが担えるのか」を具体的に掘り下げて話し合っていました。

どのようなことを地域でできるか		

(3) 発表

グループごとに発表していただきました。



2 地域でできること（まとめ）

①組織的な活動の活性化

地域で担うこと	個人で担うこと
・市からの情報を町会が市民にうまく伝えていく ・子どもを巻き込んだ活動・イベントを実施する（ごみゼロ運動，ラジオ体操，高齢者の生活支援に子どもの活用ができる仕組みをつくる） ・地縁型組織が目的型組織をうまく活用する（イベントの運営，サロンを活用した見守りなど）	・活動に興味を持って参加する ・まずは目的型に参加していただき，目的型と地縁型がつながることで全部が活性化するのでは？ ・若い世代（特に男性）を地域につなぐための取り組みを（飲み会，野球の指導，親父の会など）

②担い手を増やし，コーディネート機能を充実

地域で担うこと	個人で担うこと
・周りの方に興味・関心を持って声をかける（コーディネーター養成のシステムは行政が作る。コーディネーターだけでなく実際に活動する人が必要）	・ボランティアに登録する（管理はコーディネーター） ・ご近所から助け合う

③活動や交流の「場」の創出

地域で担うこと	個人で担うこと
・いつでも気軽にふらっと集える場を作る ・地域の人がどんな交流や場を求めているかを把握する ・地域の交流の場の情報を発信する	自分から「場」や「交流」の情報を得る

3 参考（その他個別の意見）

①組織的な活動の活性化

- ・自分の住む町をどうすれば明るい楽しい住みよい町になるか話し合える会を企画する
- ・市→町会→福祉活動の支援のための一貫として、自治会組織の中に福祉部を開設
- ・若い人の参加は、子供向けイベントを地域で実施し、親が出てくる
- ・趣味を通して話し合ったり旅行等をして絆をつくる
- ・ボランティア同士のつながり。お互いに足りないものをカバーしあう
- ・若者だけで話し合い活動する場を設ける
- ・制度ボランティアと町会のつながり。その報告等を住民が認識できるとよいのでは
- ・もっとボランティアの組織の内容を伝えなければ周りにつながらない
- ・町会の役員会報告とふる協の役員会報告をホームページで閲覧できるようにする
- ・地域の活動を町会が支援する
- ・老人と子どもを結びつけ地域ジジババ制度をつくる
- ・拡大家族。地域で家族を募集しよう
- ・町会などの地縁型組織の中に目的的な組織を立ち上げ、若い世代中心にやってもらう

②担い手を増やし、コーディネート機能を充実

- ・ボランティアの説明会を開く
- ・買い物に行ったときはできる範囲で買い物を手つのを手伝う
- ・あまり外出しない方の家を外目で確認する
- ・ボランティアの説明会を開く
- ・それと無い立ち話で最近困ったことは無いか話し合う
- ・地域新聞の欄にボランティア情報を
- ・町会のミニコミ誌や回覧などでボランティア活動の紹介
- ・子どもが参加しやすいボランティア
- ・自分に何ができるか探してみる
- ・自分が人材となりうるか。どんなことができるか考える
- ・ボランティアの言葉の意味をもっと分かりやすい言葉で置き換え
- ・ボランティアの体験入学
- ・自分がやりたいこと、できることと募集しているボランティアとのマッチングシステム

③活動や交流の「場」の創出

- ・あいさつで知り合いを増やし、通りでおしゃべりができる
- ・地域で利用できる施設の確認（空き店舗、空き家など、公共施設（近隣センター、学校））
- ・世代に関係なく集える活動（まつり、運動会、レク）
- ・地域の方が何を求めているのか身近な意見を吸い上げる
- ・常に新しい情報が分かる場所を設ける（発信基地）そこに行けば何かある…みたいな
- ・自治会の回覧以外で地域の人に情報発信できる手段を考えてみる
- ・ゆる体操（＋カフェ）、童話・抒情歌の会（＋カフェ）、笑いヨガ（＋カフェ）
- ・得意なこと（ガーデニング、漬物、お菓子作り）などの教えあい
- ・家の庭でのバーベキューやもちよりパーティー
- ・食品スーパーの近くに休憩所などを作る
- ・時間の制約が無くてもそこに行ったら誰かに会える場所づくり
- ・夕飯のおかずを作りタッパーに入れて持ち帰る会
- ・一品もちよりパーティー
- ・地域のどの場所で何をしているのかのPR

■第3回 市民ワークショップ（9/14） 「柱2 情報発信と相談体制づくり」

1 当日の進め方

(1) 課題について話し合います。

下記のテーマに沿って、席替えを繰り返す“ワールド・カフェ”という手法を使って課題を話し合っていました。

（1グループ3～4人でテーマについて15分ほど話し、1人を残して他のメンバーはバラバラに別のグループへと移動し、新たなメンバーで同様に話し合いを行います。この席替えを合計2回繰り返すことで、会場にいる多くの人と話し合いが行えました。）

テーマ「情報を、得る・伝える・共有する」

「相談を、受ける・つなげる」

上での課題



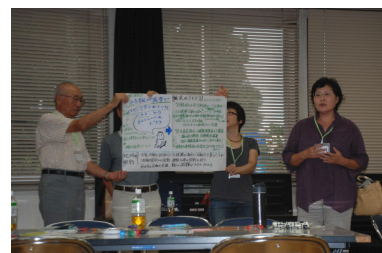
(2) 解決のアイデアや地域の役割を考えます。

（1）の話し合いの中で多く話題に挙がっていた事柄をピックアップした、「課題例」を5つ示し、各自が話し合いたい課題例へと分かれていただきました。

分かれたグループの中で、課題例について自由に話し合いを行い、「解決のアイデア」や「地域の役割」についてまとめていただきました。

(3) 発表

グループごとに発表していただきました。



2 地域でできること（まとめ）

課題例	地域でだれに相談していいかわからない…
地域の役割	・ 町会に相談のアドバイスを受けられる専門的な人材 ・ 地域活動センター（社協）などに担ってもらう ・ 地域のサロンを増やし、そこに相談窓口や相談員を置く

課題例	情報が必要だけど得られていない人に、どう伝えたらいいだろう… ・ 誰が情報を必要としているかをどう把握するか ・ 情報にアクセスできない人が最も情報を必要としている人 ・ 情報を拒絶している人
地域の役割	空き家、店舗を利用した小規模な拠点で活動したり集う人々が 地域の見守りの役割、情報伝達の役割を担う 市はその活動を支援、難しい問題はプロに任せる

課題例	人材や資源など地域の情報が整理されていない
地域の役割	地域支援課のもとに、現在ある自治会・町会の組織を活性化し、優秀な人材を発掘 まずは、地域の自助努力 個人情報保護法の過剰反応を是正→共助

課題例	ボランティアとか何かやってみたいけど、情報がなくてどう踏み出していいかわからない
地域の役割	ごみを拾うことで協働すること。そのことによって地域コミュニティの活性化につなげる

3 参考（その他個別の意見）

①困っているようだけど相談相手に結びついていない人へ、どうアプローチしたらよい？

- ・ニーズを知る
- ・みんなが必然的に集まる場所があればよい。昔の井戸に代わる何か？ 例えば生協の団地ステーション
- ・誰かがやってくれるということではなく、自分がアクションを起こしてみる
- ・自分の情報を書いた手紙を直接届ける

②地域でだれに相談していいかわからない…

- ・町会に相談窓口を作る
- ・情報を集約し、専門的なところにつなぐ
- ・今ある人材、資源を生かす・養成する
- ・広報紙や地域のミニコミ誌に載せる
- ・日頃からのご近所同士のつながりを大切にし、挨拶の中から困りごとの相談、支え合いを大事にする

③情報が必要だけど得られていない人に、どう伝えたらいいだろう…

- ・小規模活動の拠点づくり（提供者に税優遇、町会との連携協力、趣味の活動、空き家店舗利用（ゆるやかな指定管理者）、見守り）
- ・核になる人材の育成、リタイアした人の地域デビュー支援
- ・顔の見える関係、信頼関係構築
- ・情報伝達媒体の多様化（ICT、紙、口コミ、声かけ）

④人材や資源など地域の情報が整理されていない

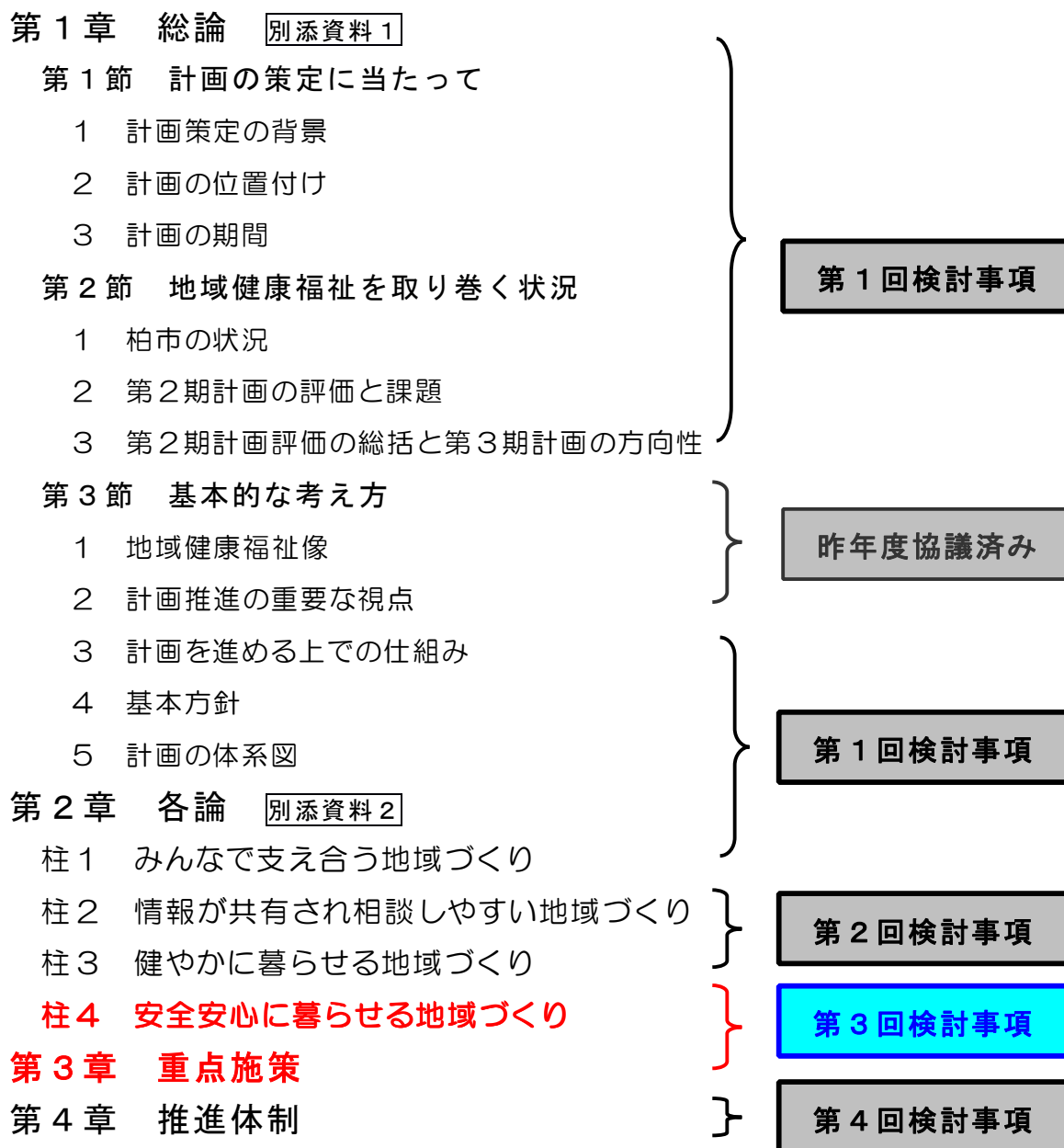
- ・地域の優秀な人材の発掘を。自治会、町会単位でまとめ、PR し、活用する
- ・近隣センターの様々な資料の市民への提供の仕方。どのくらい活用されているのか。提供の仕方の見直しが必要
- ・個人情報保護法の過剰反応をやめるべし
- ・町会や自治会が任意という考えが活動を弱くしている。その町会に住む限り必要

⑤ボランティアとか何かやってみたいけど、情報がなくてどう踏み出していいかわからない

- ・社協のボランティアセンターに相談する（訪問して）。いろいろなボランティアがあるので自分にあった活動を紹介してくれる
- ・色んな団体を活用していく。ごみ拾いからまちづくりへ。花いっぱいのにまに
- ・ボランティア情報、インターネットで検索すると、柏の場合約 50～60 件ある

3 第3期計画の構成案について

■第3期計画の構成案



※ 参考

【各論の柱について】

第2期計画から第3期計画への移行に当たって、柱の数を5本から4本へとしました。なお、削った柱については、より関係の深い他の柱にそれぞれ位置付けていきます。

4 本日、ご協議いただく事項

1 「柱１～柱３」の修正について

別添資料

①前回の審議会でいただいた主なご意見等につきまして、次のとおり修正等しました。

（柱２）・情報は双方向であるべき。

→対応：別添資料９ページの３段落及び下段の図に情報の双方向性等を追加しました。

（柱３）・現在は、４大疾病に精神疾患を加えた５大疾病という考え方が主流である。精神疾患に係る発症予防及び重症化予防を盛り込むべき。

→対応：別添資料１３ページ２段落に精神疾患に係る記載を追加しました。

・「③心の健康づくりの充実」にがん患者の家族への支援について記載すべき。

→対応：別添資料１５ページ２段落にがん患者支援に係る記載を追加しました。

・医療と福祉を一体として考えていくべき。

→対応：別添資料１７ページ③に福祉の視点を追加しました。

・環境未来都市の取り組みを前面に出していくべき。

→対応：計画策定の最終段階において、取り組み状況に応じた内容に修正します。

なお、以下は、全ての協議事項の終了後、会議終了時間までの間、委員の皆様にご協議いただきたくことを予定しています。

- ・自分の死を見つめること
- ・看取り・死に至る経過
- ・コミュニケーションをとろうとしない人・支援を拒否する人への対処

②市民ワークショップの結果を踏まえ、柱１及び柱２の「市民の役割」と「地域の役割」を作成しました。

以上の対応等につきまして、ご意見、ご提案等をお願いします（修正等の箇所については、赤字で記しています。）。

2 「柱4 安全安心に暮らせる地域づくり」について

別添資料（P20～P26）

- ・ 庁内ワーキングの協議をもとに、素案を作成しました。
ご協議、ご提案等いただけますようお願いいたします。

3 「重点施策（案）」について

別添資料（P27～P28）

- ・ 庁内ワーキングの協議をもとに、重点施策について事務局案を設定しました。ご審議いただき、重点施策を確定していきたいと考えております。
- ・ 重点施策の確定後、次回の審議会において、重点施策の具体的な方向性等をご審議いただきたく予定です。